

Next Stage へのヒントが潜む!

現代的「虎の巻」

団長 (だんちょう)

ロックバンド「一里塚劇団」のボーカル&ギターとして世界的に活躍する一方、音楽以外でも多彩な活動を展開。特に年間1,000冊以上の読書を楽しむ「本のソムリエ」として人気。大の武道ファンで、武道関連本もこよなく愛する。
http://www.honsom.com



この日はこの最後の模範套路を見ただけで価値あった。動画撮影を断られたけど、隠し撮りすべきだった。

3日間終えて思った、川口先生が日本人でヨカッタ! 私自身が学ぶという空間で言葉の壁がないのは、あのジャッキー・チェンに憧れて太極拳を始めた頃以来、目からウロコがいつぱい落ちた衝撃の3日間でした。

※熟さめやらずに書いたレポート、乱筆ご無礼お許しくださいませ。
文◎太極拳 2110 代表/勝島知子

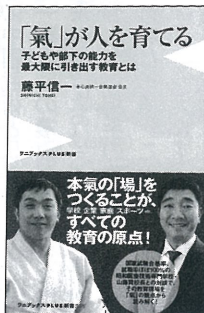
2年前の2016年9月、新たに「合気道日心館」を立ち上げてから2年を経て、満を持して開催された会派演武大会が、第3回を迎えて「追悼」を冠しなければならぬことは痛恨の極みであろう。しかし、大会全体からは地域に根ざした手作りの大会としての暖かみを湛えつつ、一人ひとりが亡き館長の思いを胸に精魂を込めた演武を次々と披露していった。

各支部の演武を終えると、井上館長と縁深き師範たちによる賛助演武招待演武が続く。賛助演武では、井上館長が長年指導を手掛けた警視庁において第六期専修生であった宮内正(宮内道場同心会)、天野正之(維心会天野道場)、両師範をはじめ、総合警備保障のアルソック合気道部、養神館合気道龍の演武。また、後半には大阪支部支部長として合気道を披露した石本誠師範が、ここではもう一つの顔である沖繩空手道松林流喜舎場塾英心會館石本道場館長として

ある夏の日のこと。本誌でもおなじみの「心身統一合気道会」会長・藤平信一氏の経営者セミナーを見学する機会があった。藤平氏の著書を通じて、さまざまな場において研修や講演をしていることは知っていたものの、実際に見るのは初めてのこと。一体どのような指導をするのか興味津々であった。大半が中高年以上の男性経営者が集う中、七〇分ほどのセミナー。印象を一言で語るならば、「身体」の使い方から入り、「心の使い方」へと導くもの。ややもすれば堅苦しい空気に支配される講演会場が、実に和やかで柔らかな雰囲気になったかのような、貴重な経験であった。

数ヶ月の時を経て、本書を読んだ。そして、あのセミナーの場がなぜ素晴らしいものになったのか、垣間見えた。なるほど、藤平氏が言うところの「気の通う場」になったのだな、と。そして、教育や企業の現場、今の日本に足りないものは、この「気が通う」ということなのだ、と。非常に合点がいった。

本書は、題名通り、「気」を通じての教育論。毎年の「臨床検査技師」国家試験合格率、就職率がほぼ100%という昭和医療技術専門学校の山藤賢校長との対談を軸に、「気が通う」ことの大切さ、本気の「場」をつくることの意味を語る。結果至上主義に傾き、小手先のノウハウや技術に意識がいちがちの現代において、本当に必要なものが、ここにある。「自律と自立」、「自律と他律」という考察も実に興味深い。何らかの形で人を育てることに携わる者、自らを育てようとする者、今すぐ読むべし!



◎書籍
「気」が人を育てる
子どもや部下の能力を
最大限に引き出す教育とは
著/藤平信一
ワニブックス PLUS 新書 定価: 本体900円+税



◎書籍
こころよめるからだ
この世界で生きていくために
考える「いのち」の「ト」
著/稲葉俊郎
春秋社 定価: 本体1800円+税

ある夏の日のこと。本誌でもおなじみの「心身統一合気道会」会長・藤平信一氏の経営者セミナーを見学する機会があった。藤平氏の著書を通じて、さまざまな場において研修や講演をしていることは知っていたものの、実際に見るのは初めてのこと。一体どのような指導をするのか興味津々であった。大半が中高年以上の男性経営者が集う中、七〇分ほどのセミナー。印象を一言で語るならば、「身体」の使い方から入り、「心の使い方」へと導くもの。ややもすれば堅苦しい空気に支配される講演会場が、実に和やかで柔らかな雰囲気になったかのような、貴重な経験であった。

数ヶ月の時を経て、本書を読んだ。そして、あのセミナーの場がなぜ素晴らしいものになったのか、垣間見えた。なるほど、藤平氏が言うところの「気の通う場」になったのだな、と。そして、教育や企業の現場、今の日本に足りないものは、この「気が通う」ということなのだ、と。非常に合点がいった。

本書は、題名通り、「気」を通じての教育論。毎年の「臨床検査技師」国家試験合格率、就職率がほぼ100%という昭和医療技術専門学校の山藤賢校長との対談を軸に、「気が通う」ことの大切さ、本気の「場」をつくることの意味を語る。結果至上主義に傾き、小手先のノウハウや技術に意識がいちがちの現代において、本当に必要なものが、ここにある。「自律と自立」、「自律と他律」という考察も実に興味深い。何らかの形で人を育てることに携わる者、自らを育てようとする者、今すぐ読むべし!

合気道日心館 井上強一館長
追悼演武大会



挨拶では声を詰まらせる場面もあったが、演武では亡き・強一館長から受け継いだ技と心を気丈に披露した愛子館長。下写真は演武者集合写真。



また、招待演武では警視庁合気道師範の内野正義師範、合気道仙元館館長の高島三郎師範、新宿区合気道連盟会長の周参見紳次郎師範がそれぞれ演武を披露した。

演武のトリを務めるのは、井上館長の愛妻、井上愛子新館長。演武に先立つ挨拶

お詫びと訂正
本誌12月号の連載「修験道」是即ち心身向上」において、以下の通り脱字がございました。80ページ中段「自分の身体を大切に扱おうと、楽に後屈できる」の写真キャプションの文末が「首や肩の」で切れています。が、正しくは、「首や肩の力みが緩まるためである。」です。お詫び申し上げますとともに、訂正致します。
本誌編集部

て、沖繩で学ぶナイファンチに、故芦原英幸芦原會館館長直伝のサバキ技法を華麗に演武してみせた。

また、招待演武では警視庁合気道師範の内野正義師範、合気道仙元館館長の高島三郎師範、新宿区合気道連盟会長の周参見紳次郎師範がそれぞれ演武を披露した。

演武のトリを務めるのは、井上館長の愛妻、井上愛子新館長。演武に先立つ挨拶

では声を詰まらせる場面もあったが、演武においては亡き夫から伝えられた合気道の技と心を遺憾なく体現してみせていた。

悲しみを越え、愛子館長を中心に新たなスタートを切った合気道日心館。故・井上強一館長の人柄そのままに、絆でつながれたその未来は限りなく明るいと感じられた。

文◎本誌編集部

書籍紹介
大宮司朗×平上信行 著
【対談】合氣の秘傳と武術の極意
A5判 392頁 2800円+税
(株)八幡書店刊
TEL 03-3785-0881 代表
https://www.hachiman.com/shopdetail/000000000297/

本書は、大東流柔術と合気道という二大武道体系において重視される「合気」という謎を徹底的に追求した待望の一冊。その発祥から謎に包まれつつも、我が国が育んだ徒手武術たる柔術の一角として、未曾有の技術で注目を集め続ける「合気」をテーマとして、長年、古流武術、合気系武術の研究を続けてこられた二大巨匠が、縦横無尽に語り尽くした決定版。新しい史料をまじえた綿密な考証や討議を加えることで、類稀なる濃密な【武術論議】が結実している。「合気」の実践者、武道家のみならず、少しでも「合気」に興味を持つ愛好家には、絶対のお薦め本である。※この貴重な書籍を讀者2名へプレゼント! 御希望の方は本誌の綴じ込みハガキを利用して御応募ください。なお、当選は発送をもって代えさせていただきます。